

第5学年星組 My Hero

指導者 和田 郁 川口 ローラ

「学びに向かう力」が涵養されている姿

憧れの人物について自分なりの英語表現で他者と伝え合う中で、互いが大切に思うことを互いに理解し、尊重し合おうとする姿。

単元目標

- 「Who is ~?」「He / She can ~.」「~ is good at ~.」の表現を用いて、人物について尋ねたり紹介したりすることができる。
- 思いを伝えたい相手を意識しながら、憧れの人物について、既習と新出の英語表現を組み合わせ、自分なりの表現で伝えることができる。
- 思いを伝えたい相手を意識しながら、憧れの人物について、既習と新出の英語表現を組み合わせ、自分なりの表現で伝えようとしている。

全8時間（ビルドタイプ×スパイラル型）

子どもの姿と支え方

振り返り

第8時：How was my lesson?
(単元全体を振り返る。)

第7時：Let's talk about my hero. ②
(憧れの人物について、学級の友達以外の相手と伝え合う。)

第6時：Let's talk about my hero. ①
(本時) (憧れの人物について、学級の友達と伝え合う。)

Check (第8時)

単元を通じた学びを自覚できるように、リフレクションの変容を視点として設定する。

第5時：What is my hero like?
(自分の憧れの人物について、伝えたい内容を選んで整理する。)

Challenge (第7時)

相手を意識しながらコミュニケーションを図れるように、表現が学級の友達と異なりそうな相手を設定し、工夫して話す必然性を高める。

第4時：What is this hero like?
(様々な人物の特徴や性格を考え、言葉で表現する。)

Creativity (第6時)

対話しながら表現を発展させていけるように、応用しやすい言葉や効果的な組み合わせ方を用いている子どもの発言を板書し、即時のフィードバックを行う。

第3時：What do I think about "hero"?
(「hero」という言葉について考え、イメージを共有する。)

第2時：What is the difference between "can" and "is good at"?
(「can」と「is good at」の違いについて考える。)

出会い

第1時：What can they do? What are they good at?
(can と is good at を使って、できることや得意なことを表現する。)

Choice (第5時)

表現したい内容に必要な言葉を自分で選択できるように、ピクチャーカードで単語を提示する。

Collaboration (第4時)

人物に応じた表現について様々な考えを出し合えるように、話合いの時間や形態を工夫する。

Critical Thinking (第2時)

イメージ通りに表現できるように、既習表現の can と新出表現の is good at をどのように使い分ければよいか問い掛ける。

追究

今の子どもの姿

「言葉を通して、人とつながる」を合言葉に、子どもたちは自分なりに表現することを大切にしながら、半年間外国語科の学習を積み重ねてきた。新たな言語材料に出会うたびに、自分の思いを伝えることができる可能性を素直に信じ、挑戦する姿が見られている。前単元では、助動詞 can を用いて、自分や友達のできること・できないことを表現し、伝え合う活動を行った。それらを通して、子どもたちは互いに様々な一面があることやまだ知らない一面があることに気付いた。また、三人称 He / She の表現にも触れたことで、I や You の二者間から会話が広がる新たな楽しさを感じていた。

本単元を通して、「伝えたい」「知りたい」という思いを持ち、「言葉を通して、人とつながる」経験を更に重ねてほしい。そして、第5学年の後期をスタートさせた今、憧れの人物について考えて表現し、伝え合うことで、最高学年に向けて成長していこうとする思いが高まっていくことを願っている。

単元構想の意義

本単元では、can に加えて is good at も活用しながら、憧れの人物について表現していく。アニメ等のヒーローを想起させる「superhero」ではなく、尊敬の念を抱く実在の人物「hero」を思い描いていくことで、子どもたちが成長していく自分のイメージを膨らませ、第5学年としての残り半年間を前向きに歩もうとする思いを高めたい。また、可能かどうかという一般の事実を意味する can だけでなく、得意かどうかという個人の感情を込めやすい is good at を新たに学び、他者と共有することで、子どもたちはこれまで以上に自分の思いを伝え合う言語活動を実現していけると考える。

本単元でも、既習・新出表現を組み合わせながら、目の前の相手に精一杯伝えようとするコミュニケーションを大切にしていきたい。そして、自分の思いを自分の言葉で伝え合う中で、互いが大切に思うことを互いに理解し、尊重し合おうとする子どもたちの姿につなげていきたい。

What is my hero like?

本時の授業 (6 / 8)

- 1 日時 令和6年11月6日(水) 13:40~14:25
- 2 場所 5年星組教室
- 3 目標 憧れの人物について、既習と新出の英語表現を組み合わせ、自分なりの表現で友達と伝え合うことができる。

本時における「学びに向かう力」が涵養されている姿

- 表現や反応に困難さを感じても、自分なりに工夫しながら、本当に伝えたい思いを相手に伝えようとしている姿。
- 友達と進んでコミュニケーションを図り、相手の思いを推測しながら話したり聞いたりしている姿。

学習活動			場面	単元の評価規準【●】	
予想される 子どもの 意識の流れ	1 本時のめあてを設定する。 5星の友達にどんな風に伝えたい? 【どのように】 ・ My Hero のよさが相手に伝わるように話したい。 ・ can だけを使っていた前のレッスンよりも、自分の思っていることを詳しく伝えたい。 ・ 今までに習った言葉をいろいろ使って伝えたい。 ・ グループ (ペア) で話したい。 【なぜ】 ・ My Hero のすごさを知ってほしい。 ・ 友達の My Hero もたくさん知りたい。 ・ いろんな Hero を知りたい。 ・ 友達の新しい一面を見付けたい。	2 憧れの人物について、友達と伝え合う。 My Hero について _____ 伝え合おう。 【問い】 ・ 友達の My Hero は、どんな人物なのだろう。 ・ 相手に分かりやすく伝えるには、どのように工夫すればよいのだろう。 ・ 自分も相手も気持ちよく話したり聞いたりするには、何が大切なのだろう。 【発見】 ・ 人物を知らない場合は話が伝わりにくいから、ゆっくり話した方がよさそうだ。 ・ 紹介は I like で始めてもよいかもしれない。 ・ 誰なのか知ったら、どんな人なのか知りたくなる。 ・ 聞いた後に質問をしたら、会話が続きやすい。 ・ 何回か繰り返すと、スムーズに話せるようになる。 ・ ○○さんの憧れる理由は、私と似ている (違う)。 ・ △△さんの My Hero が□□さんなのは、そういう理由なんだ。 ・ 自分が思うよさを分かってくれとうれしいな。	3 本時の活動を振り返る。 今日の学習を振り返ろう。 【学習の内容】 ・ みんなそれぞれに My Hero がいる。 ・ 同じ内容でも相手によって反応が違うから、会話の流れも変わってくる。 ・ 自分が予想していた内容と違う友達もいた。 ・ もっといろいろな人の My Hero を知りたいな。 【学習の仕方】 ・ 相手の反応を見ながら話を進めることが大切だ。 ・ 自分が話すだけでなく、お互いに伝え合うと楽しい。 ・ 間違っても必死で伝えたら、なんとか伝わる。	出合い	● 既習表現 can と新出表現 is good at の使い分けを考えながら、次時以降の言語活動の見通しを持つとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】
	指導(○)と評価(●)	○ インプットした言葉を再生するのではなく、目の前の相手とコミュニケーションを図るという意識を持てるように、どのように伝えたいのか問い掛ける。 ○ 自然な流れで活動の目的を自覚できるように、どのように伝えたいのかを考えた後に、なぜ伝えたいのかも問い掛ける。	○ コミュニケーションの形を自分で選択して移動できるように、グループトークとペアトークの場所をそれぞれ示しておく。 ○ 言語活動を繰り返す中で表現を工夫し、発展させていけるように、応用しやすい言葉や効果的な組み合わせ方を用いている例を板書し、学級全体で共有する。 Creativity	○ 学び方を自覚できるように、学習の「内容」と「仕方」の二つの視点で書くことを促す。 ● 憧れの人物について、既習と新出の英語表現を組み合わせ、自分なりの表現で友達と伝え合うことができたか。 【様態・リフレクションシート】	追究
				振り返り	● 自分と異なる思いを持つ他者に対する理解を深め、互いが大切に想うことを互いに理解し、尊重し合おうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】